

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和3年3月9日
タイトル	「くわい」の出前授業をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和2年11月20日（金）福山市立川口小学校で5年生に「くわい」について出前授業をしました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培しており、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

川口小学校で2時間目に5年生全員が集まり、元くわい出荷組合長で前水土里ネット福山の理事の枝廣義春さんがくわいについて出前授業され、水土里ネット福山からくわい栽培に関係する農業用水などについて出前授業をしました。

5年生は当初くわいについて学校から出ている人から話を聞いたり広めたりしようと計画していましたがコロナ禍のため学校以外の人と接触することができなくなっていました。インターネットなどを利用してくわいに関する様々なことを調べていましたが、やはり実際に生産者の話を聞きたいと思うようになり今回の出前授業をすることになりました。

コロナ対策のため全員マスク着用のうえ教室の窓を開けて換気をし、出前授業の時間も昨年より1時間短くしました。



枝廣さんのお話を興味津々で聞く子ども達！本物のくわいを手に取り感動です！

枝廣さんの授業内容

- ・くわいは約1,000年前中国から伝来した。
- ・福山市では120年前に福山城のお堀に植えられたと伝えられている。
- ・川口町では約70年前から本格的にくわいの栽培がはじまった。
- ・当時は寒さが厳しく、収穫も洗浄も手作業だったため非常に厳しい作業だった。
- ・米以外に転作することが勧められ徐々に増えていき、約60年前にくわい出荷組合ができて本格的な共同出荷が始まる。
- ・約30年前に水圧ポンプを使って収穫するようになり収穫作業が3～5倍速くなった。
- ・約20年前に埼玉県を抜いて日本一になった。
- ・くわいの種類は、青くわい、白くわい、吹田くわいの3種類で、福山は青くわい。
- ・くわいの芽は1m以上に成長し約1000本に1本の割合で白い花を咲かせる。非常にめずらしい。
- ・収穫は11月中旬からで、今年は11月9日が初出荷だった。
- ・川口町にある農協の福山グリーンセンターで、紅白の幕を張って初出荷を盛大に行っている。
- ・出荷の最終は12月22日頃で、くわいの出荷は1ヶ月半ほどである。
- ・生産農家は33軒で、面積は東京ドーム8個分。
- ・くわいはそのまま料理にして食べるだけでなく焼酎やスープ、お菓子に加工されている。
- ・くわいの収穫の時は、まず茎を刈り取る。それからポンプで水圧をかけて掘る。
- ・今は収穫ロボットがある。レンコンを収穫する機械のノズルを改良してくわい用にしている。

枝廣さんは、パネルを使ってくわいの葉や花の様子、収穫の様子を説明されました。またホワイトボードに絵を描いて、くわいがどこから生えてくるかクイズをされました。子ども達は、玉ねぎのように、くわいのイモの底から生えてくるとする子や芽の根本から生えると思う子が多かったのですが、実際は、芽の途中から生えてくるそうです。一番手を挙げる子が少なかったのに正解だったので、びっくりしてどよめきがおこりました。

枝廣さんより、くわいを栽培するには水が一番大切と話していただき、水土里ネット福山から農業には水が欠かせないことや農業用水路について説明しました。

遠く離れた駅家町から取水していることや除塵機などの施設について説明し、その農業用水路に「スイゲンゼニタナゴ」という絶滅危惧種の魚が生息していることを説明しました。

福山市の環境保全課から提供された「ふくやまのスイゲンゼニタナゴ」の冊子やスイゲンゼニタナゴのペーパークラフトなどについて説明しました。

今年はコロナ対策で時間を短縮しているためスイゲンゼニタナゴのペーパークラフトを作成する時間がないので見本を見ていただき、各自が作成することになりました。このペーパークラフトは農業用水路を覗いたらスイゲンゼニタナゴや他の魚などが生息している様子になっているので、みんながそれぞれ想像して作ってほしいと伝えました。最後はみんなの「ありがとうございました。」の大きな声で出前授業は終わりました。

この出前授業で、校庭で栽培しているくわいの収穫の方法や収穫したくわいの保管方法など子ども達が具体的な質問も出ました。収穫される時も取材したいと思います。

また、地域の農業用水路にスイゲンゼニタナゴという魚が生息しているかもしれない。みんなですくわいを守らないといけないと興味を持ってくれたようです。

くわいの農業体験から、農業用施設や環境など様々な分野に繋がってほしいと思います。水土里ネット福山は農業体験に協力することで21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。